
月の糸

珍法句齋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の糸

【Nコード】

N1089Z

【作者名】

珍法句齋

【あらすじ】

小夜子と「僕」の日常。

垂れる雫（前書き）

昔プログラムで書きためた。

垂れる雫

「私は後何年生きられるのかしら」

小夜子が、こちらを見ながら呟いた。さつきから、縁側で白く細い脚を何度も組みなおしている。僕がその仕草をちらりと見るたびに、小夜子は目を少し細めて口元を綻ばしていた。

「ねえ、お兄様ったら。答えてよ」

そう言いながら、僕の脚に自分の脚を絡めてきた。小夜子の、深雪のように白い肩から甘い匂いが香り、僕は少しだけ距離をあけた。なんで、こんなに歳不相応な香りがするのだろうか。僕の少しの動揺に気づいたのか、小夜子は僕との距離を詰めてきた。

「お兄様……」

僕は小夜子の言葉を唇でふさいだ。上唇を少し吸い、小夜子の唾液が僕の舌先を少し潤した気がする。唇を離すときに少し糸を引き、それが月明かりに照らされていた。僕と小夜子は、お互いの口から伸びるそれを見つめていた。

「私、お兄様の子供が欲しいわ」

小夜子は僕の間を見つめながら言った。

「でも、私はまだ初潮が来てないの」

小夜子は続けて言葉を紡ぐ。

「私、お兄様を愛してるわ」

「だって、お兄様のことを考えるだけ、こんなになってしまっんですもの」

そう言いながら、小夜子は着物の裾を捲くり、いきり立った。「それをさらけ出した。根元に薄っすらと毛が生えてているが、まだ皮が被っている。その先からは透明な液が滴っていた。」

「まだ作れないよ」

僕はそう言うしかなかった。その「まだ」がずっと来ないとわかっていながら。

「私、楽しみだわ」

月が雲に隠れ、小夜子の藍に近い黒髪が風景と同調する。それでも小夜子の微笑んだ顔だけははつきり見えた。とても綺麗だった。

漫る溜まり

突然の夕立に、傘を持ってない僕は近くのバス停で、雨宿りをする羽目になった。だが、いつまでたっても止む気配がない。少し肌寒くなってきたなと思い始めた時、背後から人の気配を感じた。いつの間にか小夜子がいた。黄色のワンピースから覗かせたシミ一つ無いので肩が雨粒を弾いて、思わず見惚れてしまう。僕の大事な妹にこんなことを感じてしまう自分が少し嫌になった。そんな僕を見て小夜子は上目遣いで僕の顔を覗き込んできた。小夜子、なんで笑っているんだい。

「さあ、帰りましょう」

「何処に」

「家に決まってるわ」

「もう無いよ」

「あるわ」

ちよつどバスが来た。行き先は僕の家と書かれている。ああ、そうか、僕の家はまだあったんだ。

「さあ、帰りましょう」

「そうだね」

僕と小夜子はバスに乗った。ここで目が覚めた。窓から外の景色を

見ても雨が降っていない、恥ずかしながらようやくさっきのことが夢だと実感できた。だんだん頭が寝起きから覚醒してくると、居間に漂っている匂いに気づき、思わずお腹が鳴ってしまう。

「お兄様、起きたのかしら」

台所から小夜子の声がした。どうやら朝食を作ってるらしい。

「早くしないと学校に遅れてしまうわ」

小夜子はそう言って急かすので、とりあえず着替えて、支度をした。昨日は僕よりも早く寝たくせに、服もちゃんとアイロンをかけてある。小夜子はいつから起きていたんだろうか。まあ、これは後で聞こう。今の僕にはどうでもいいことだ。小夜子、僕の大事な「弟」。僕は小夜子と愛せないが、一緒にいることは出来る。今はとりあえずそれでいい。

「お兄様」

「今行くよ」

僕は小夜子に呼ばれてテーブルにつこうとして、少しこけそうになった。小夜子は少しだけ上目遣いで僕の顔を覗き込んできた。小夜子、そんなに笑いをこらえないでくれよ。恥ずかしいから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1089z/>

月の糸

2011年12月4日11時49分発行